研 究 者：山田　裕之（所属 : 国立保健医療科学院 口腔保健部）

研究題目：小児における口腔関連 QOL 尺度の作成の試み

目　的：

QOL（Quality of Life）尺度とは，評価者本人が複数の質問に回答し主観的な健康状態を数量的に測定する評価尺度である。口腔の健康状態に関連した QOL 尺度は，口腔関連 QOL 尺度と総称され，日本では，成人を対象とした日本語版 GOHAI や日本語版 OHIP が作成されている。しかし，我が国の小児を対象とした口腔関連 QOL 尺度はいまだ作成されていない。小児の健康状態は客観的指標のみで評価すると，主観的な評価との間に大きな差が生じ，過大・過小評価が起こりやすいと言われている。我が国の小児歯科保健状況を勘案し，妥当性・信頼性が検証された口腔関連 QOL 尺度が作成できれば，歯科保健アプローチの効果を評価するためのアウトカム指標として用いることができるばかりでなく，口腔内の状態から予測される児童虐待の早期発見など，児童保健・福祉にも応用が期待できる。また，包括的な小児歯科保健状態の地域間比較にも役立つ。

本研究の目的は，日本の小児を対象とした口腔関連 QOL 尺度を作成する先駆けとして，海外で使用されている国際的な口腔関連 QOL 尺度の中から，システマティック・レビューを行うことで評価尺度を選定し，日本語版の作成を行い，わが国の小児における妥当性・信頼性について検証することである。

対象および方法：

システマティック・レビューにて，8〜10 歳までを対象とした外国語版評価尺度の選定を行い，日本語の作成を行った。外国語版評価尺の日本語版を作成する手順と方法は，下図に示すとおりである。選定した外国語版評価尺度の原著者に日本語版の作成許可を得たうえで，オリジナルの表現に注意しながら，日本語への翻訳作業を行い，暫定版を作成した。翻訳した暫定版を用いて，小学校 2〜3 年の各学年の児童 10 人ずつにパイロット・スタディを行い，表現の問題点を指摘してもらった。日本の表現に適するように，パイロット・スタディで指摘をいただいた部分を訂正したのち，暫定版をオリジナル言語に逆翻訳した。ネイティブによる，原版と逆翻訳した暫定版との比較作業を行い，表現に違いがあるどうかの確認作業を行った。確認作業で見つかった，表現の違いをオリジナルに忠実になるように配慮しながら改めて修正した。出来上がった暫定版を原作者へメールで添付し，表現の確認と，作成した日本語版を使用するための許可をお願いした。原作者から，最終的な了承を得られた後，日本語版尺度が完成した。

完成した日本語版を用いて計量心理学的評価を行うために，関東近郊にある小学校に協力をお願いし，2〜3 年生全員（264 人）を対象にアンケート調査を行った。また，再現性の解析のために，約 2 週間の間隔をあけて同じアンケート調査を行った。

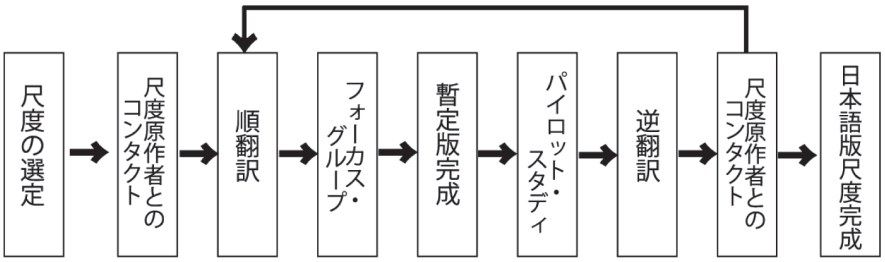


図1　日本語版開発の手順

結果および考察：

国際的な口腔関連 QOL 尺度の中から，システマティック・レビューを行い外国語版評価尺度の選定を行った結果，CPQ（Child Perceptions Questionnaire）[1), 2)]・Child OIDP（Child Oral Impact on Daily Performances）[3)]・COHIP（Child Oral Health Impact Profile）[4)] の 3 つを候補として取り上げることができた（表）。その中でも CPQ は最も収載論文数が多かった。また，幅広い年齢に適応でき，発達段階別に 8〜10 歳及び 11〜14 歳の 2 つの評価用紙が，存在していた。以上の結果から，CPQ を選定し，8〜10 歳を対象とした日本語版日本語版 CPQ8-10 を作成することにした。

今年度は，日本語版 CPQ8-10 を上記の手順と方法で完成させ，関東近郊の小学校で 2〜3 年生全員を対象として，実際に日本語版 CPQ8-10 を試行した。現在，結果については集計中であるが，今後は，調査結果の計量心理学的解析を進め，日本語版 CPQ8-10 の妥当性・信頼性・再現性について解析を行う予定である。

表　システマティック・レビューの結果、選択できた国際的な小児を対象とする口腔関連 QOL 尺度

評価尺度	対象年齢	収載論文数
CPQ	8-10 [1)]，11-14 [2)]	9
COHIP	11-12 [3)]	3
Child-OIDP	8-15 [4)]	1

1）Jokovic A, Locker D, Stephens M, Kenny D, Tompson B, Guyatt G. Validity and reliability of a questionnaire for measuring child oral-health-related quality of life. J Dent Res. 2002 Jul；81（7）：459-63.
2）Jokovic A, Locker D, Tompson B, Guyatt G. Questionnaire for measuring oral health-related quality of life in eight-to ten-year-old children. Pediatr Dent. 2004 Nov-Dec；26（6）：512-8.
3）Gherunpong S, Tsakos G, Sheiham A. Developing and evaluating an oral health-related quality of life index for children；the CHILD-OIDP. Community Dent Health. 2004 Jun；21（2）：161-9.
4）Broder HL, Wilson-Genderson M. Reliability and convergent and discriminant validity of

the Child Oral Health Impact Profile（COHIP Child's version）. Community Dent Oral Epidemiol. 2007 Aug；35 Suppl 1：20-31.

成果発表：（予定を含めて口頭発表，学術雑誌など）

第 70 回日本公衆衛生学会総会（2011 年 10 月 19〜21 日）にて，発表を行う予定である。

CPQ を選定したシステマティック・レビューを，学術専門誌に投稿中である。

日本語版 CPQ8-10 の解析結果がまとまり次第，国際誌に投稿予定である。